

大学の世界展開力強化事業（平成27年度採択）事後評価結果

大 学 名	上智大学、南山大学、上智大学短期大学部
整理番号	L-7
事 業 名	人の移動と共生における調和と人間の尊厳を追求する課題解決型の教育交流プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 S	事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
コメント	
<p>本プログラムは、上智大学、南山大学及び上智大学短期大学部の3校が連携し、「人の移動と共生」をテーマとして調和と人間の尊厳を追求する国際高等教育連携交流モデルを確立することを旨とした事業として実施したものである。</p> <p>南山大学の日本語プログラム、上智大学の専門性に基づく「日本・ラテンアメリカ比較演習」等の特設科目、上智大学短期大学部のサービ斯拉ーニングなどそれぞれの強みを活かしたマルチキャンパス学修の有機的な教育交流プログラムが参加学生に向けて実施されている。派遣前の日本人学生と外国人学生が共に受講するシステムを構築し、コミュニケーションの深化とプログラムへの理解促進に努めた結果、目標を上回る派遣・受入実績をあげたことは評価できる。質の保証の観点から見ても、ほぼ全面的に単位取得を伴った相互教育交流事業として展開されており、基準時間を示す等、透明性の高いプログラムの構築に向けた工夫が見られる点や、新規開講科目でRA及びTAを積極的に雇用し、効果的にプログラムを推進したことに加え、「インターンシップ協議会」により派遣先の企業等と協働してプログラムの質の向上に努めた点などが評価できる。また、プログラム実施期間を通して目標達成への努力と、短期留学が長期留学の動機付けとして機能している様子が窺える。特に、南山大学では、プログラム開始当初2校しかなかった交換留学協定校を6カ国9大学まで拡大するなど、大学の国際化が短期間のうちに進展した。そして、各大学では補助期間終了後の独自予算によるプログラム継続とさらなる拡充を決定しており、上智大学及び南山大学では独自の奨学金制度を整備していることから、今後のプログラムの継続・発展も大いに期待できる。</p> <p>一方で、インターンシップに参加した学生の学習成果に対する評価方法の明確化や、養成しようとするグローバル人材に関する教育成果について、学習成果分析のツールを使って可視化するなどの工夫がなされることや、目標として掲げる「調和と人間の尊厳」の追及が具体的にどのような成果をもって実現したことを確認するか等、客観的に把握できる指標の構築について対応が望まれる。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的なプログラム展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、さらなるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	